

## 園内飼育爬虫類におけるサルモネラ属菌保有状況調査

○真砂聖令菜, 大滝侑介  
(横浜市立野毛山動物園)

近年爬虫類のペット数増加に伴い、爬虫類からのサルモネラ感染症が問題となっている。サルモネラ属菌は、ヒトでは血清型によって急性胃腸炎等を引き起こす一方、爬虫類では臨床症状を示すことなく常在菌として腸管内に保菌している。爬虫類からのサルモネラ感染症は動物園においても例外ではなく、過去には米国の動物園にて下痢症の集団発生が報告されている。しかしながら今日まで、日本では動物園内飼育爬虫類におけるサルモネラ属菌保菌調査に関する文献は報告されていない。

以上のことより本研究では、野毛山動物園内飼育爬虫類におけるサルモネラ属菌の保有状況調査を実施した。13種のヘビ亜目・トカゲ亜目・カメ目を対象とし、そのうちヘサキリクガメ (*Astrochelys yniphora*) やミヤコカナヘビ (*Takydromus toyamai*) 等サルモネラ保菌報告のない希少種も対象とした。これらの新鮮糞便を採取後、共同研究先にてサルモネラ属菌の分離・培養、同定を行った。その結果、58検体中5検体 (8.6%) の糞便からサルモネラ属菌が分離された。さらに血清型を調査したところ、ボールニシキヘビ3検体からは *Salmonella enterica* subsp. *enterica* serovar II bellville, *S. ser.* Lome もしくは *S. ser.* Sokode, *S. ser.* Zigong (5.2%), グリーンイグアナ1検体からは *Salmonella* sp. (1.7%), ミヤコカナヘビ1検体からは *S. ser.* Zigong (1.7%) が分離された。いずれの血清型も人獣共通感染症になり得る病原性の報告は無いが、今後も引き続き保菌状況調査を行うと共に、手指の洗浄等衛生面に配慮し予防に努める必要がある。またミヤコカナヘビからのサルモネラ属菌分離は、本研究が初めての報告となった。